

川根トモダチコレクション

～地域活性化に必要なものとは？！～

かわにゃんこ（松田ゼミ）

1、はじめに

研究背景

人口減少や高齢化が進む中で、観光は地域振興の重要な手段として注目されている。川根本町では、グリーンツーリズムや茶文化などを生かしながら、移住者やNPOなどが協働し、町全体を挙げて地域活性化を進めている。その努力もあり国内外問わず多くの観光客でにぎわっている。本研究ではフィールドワークを通じて、地域を支える人々の役割と地域活性化の実態を明らかにする。

研究目的

静岡県川根本町を事例として、観光を通じた地域活性化の推進主体である「**地域の人（アクター）**」の役割と関係性を明らかにし、そのような人たちの存在が**地域にどのような影響を及ぼしているのか**を考察する。

研究方法

- 静岡県川根本町でのフィールドワーク
- 文献調査

2、川根本町の概要

観光名所

- 夢の吊り橋



- SL



特産品

- 川根茶



- 川根本町ゆず



場所：静岡県 中央部

面積：496.72km²（県全体の6.4%）面積の約90%は森林

人口：5,555人（10月1日現在）

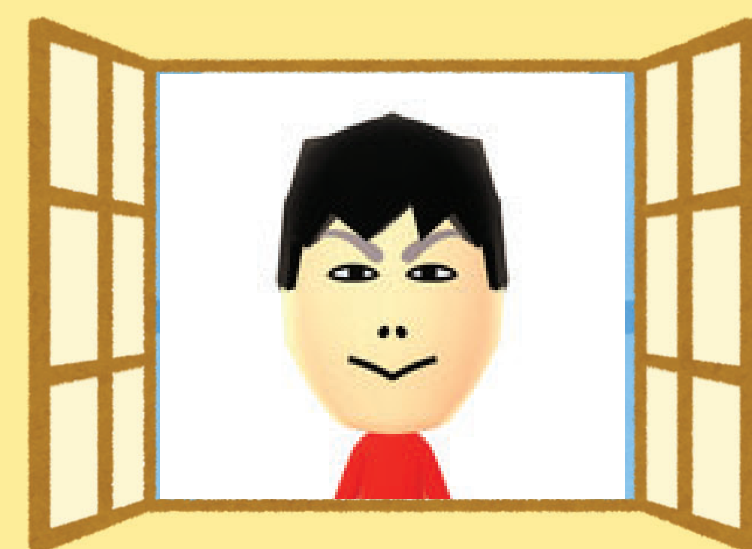
産業：川根茶、自然、温泉などの様々な観光資源

課題：人口減少、高齢化

キャッチフレーズ：水と森の番人が作る癒しの里

3、川根トモダチ紹介

※人名、組織名は仮名



浜野さん

NPO法人かわねライフ理事・事務局長
株式会社KAWANE SENZU 代表取締役
若者・女性・町の人のために様々な事業を行う
【事業】
キャンプ場、高齢者配達事業、農家民泊の斡旋、ゆず商品の開発、児童クラブ、移住推進事業 など…
性格：世話焼き

株式会社 川根ホールディングズ

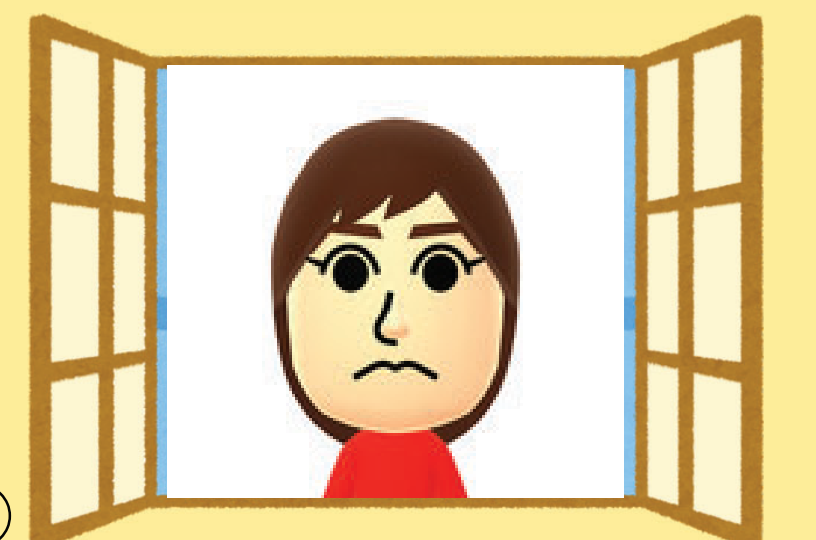
観光事業推進室長

浜さんと協力して町おこし

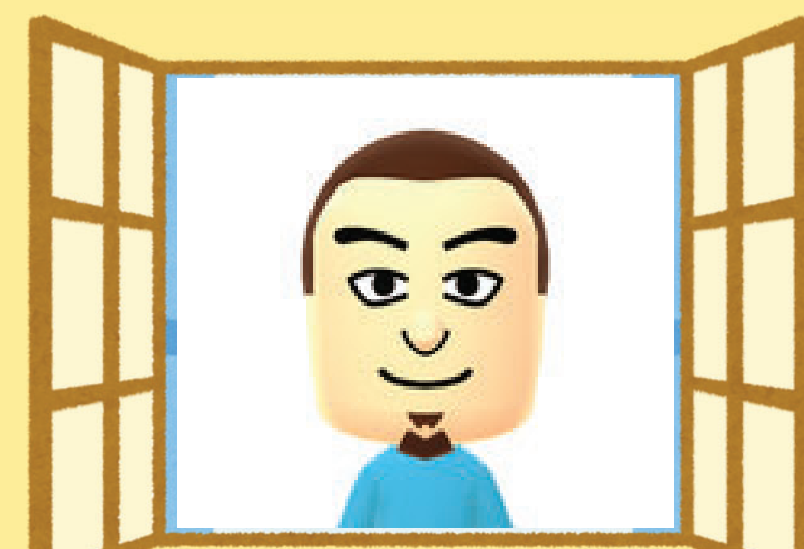
ウッドハウスおろくぼ

過去にガイドの経験あり→観光のノウハウ○

性格：しごでき

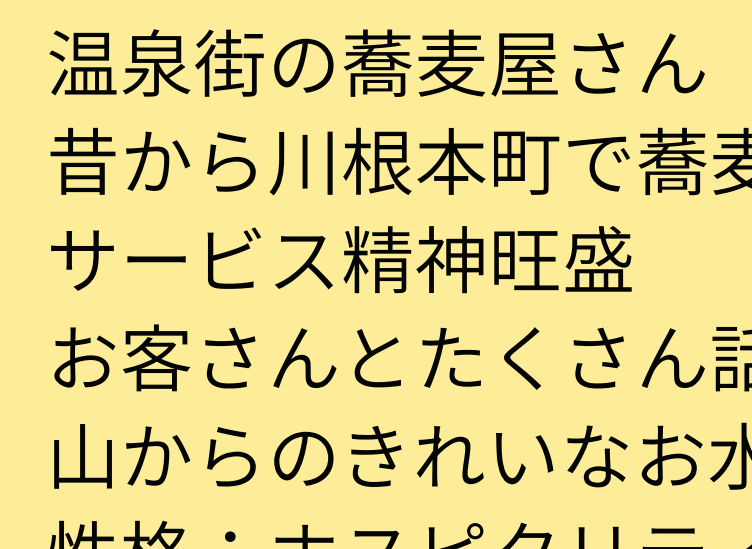


温泉宿の女将さん



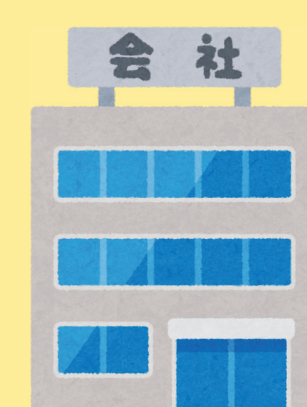
シュンキチさん

ゲストハウスの建築・運営
浜松からの移住者
室内清掃から料理まで一人でこなす
自分のやりたいことを積極的にする
地域住民と仲良し
性格：行動派



蕎麦屋の女将さん

温泉街の蕎麦屋さん
昔から川根本町で蕎麦屋をやっている
サービス精神旺盛
お客さんとたくさん話す
山からのきれいなお水を汲ませてくれる
性格：ホスピタリティ精神

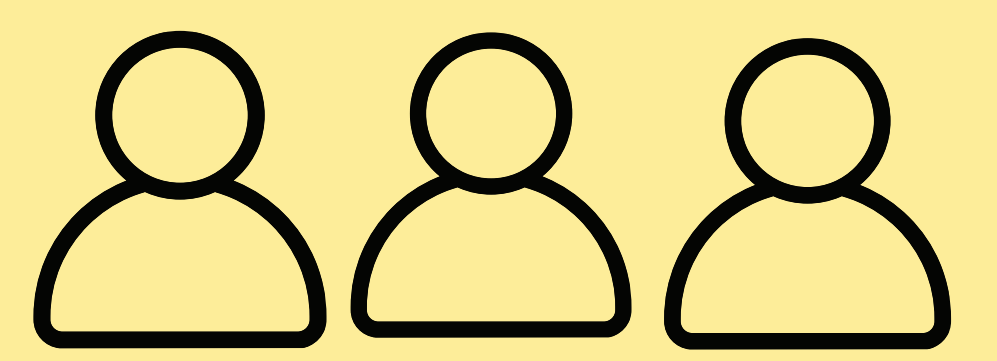


インドのIT企業

川根本町にサテライトオフィスを置く
インド人従業員と地域住民をつなげたい
従業員はカレーとクリケットが大好き

地域住民

川根本町に住む住民



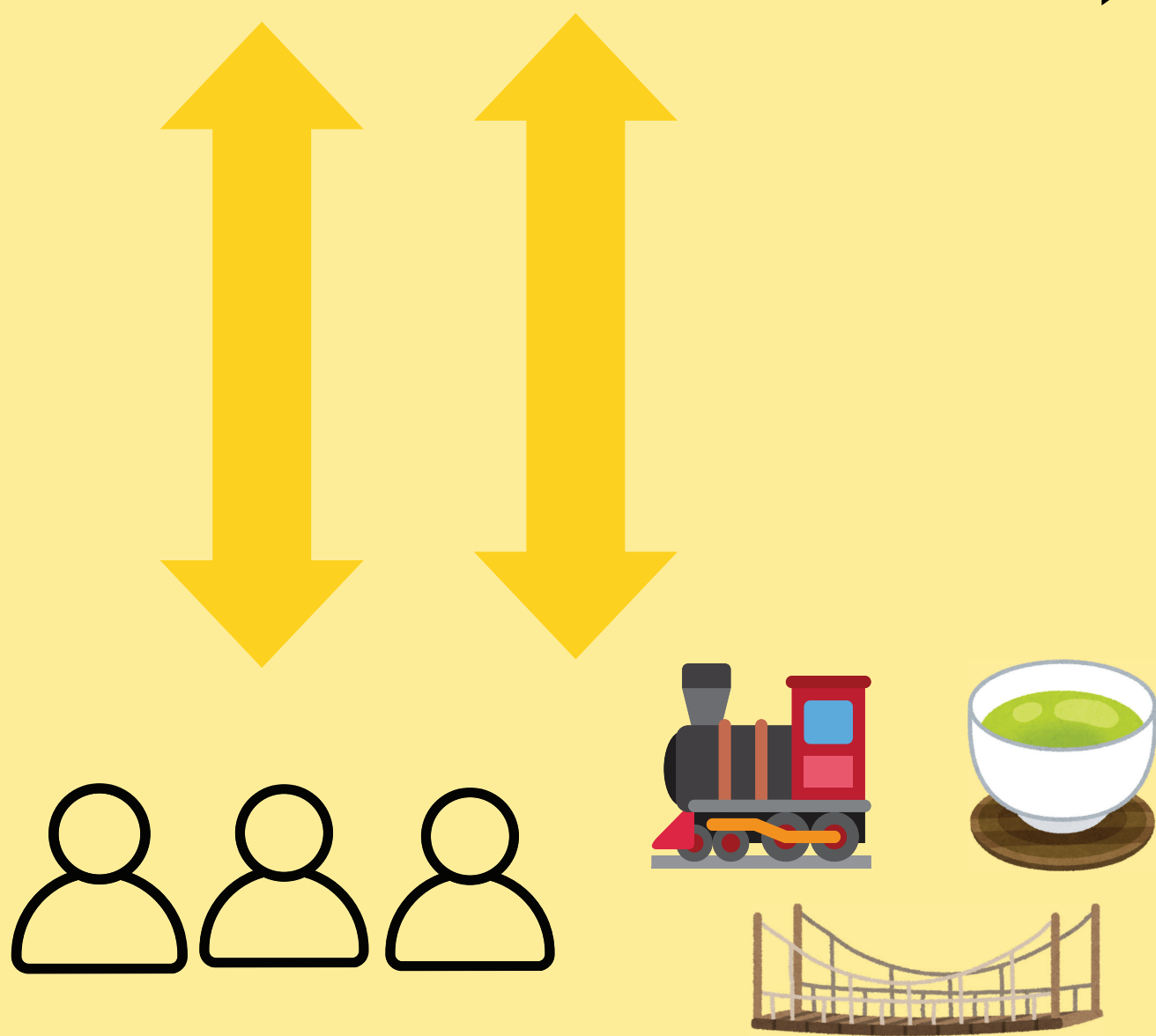
地域住民

4、結果

従来 of 川根本町



役場：人の異動が頻繁
⇒継続的な取り組みが難しい



地域住民＋豊富な観光資源

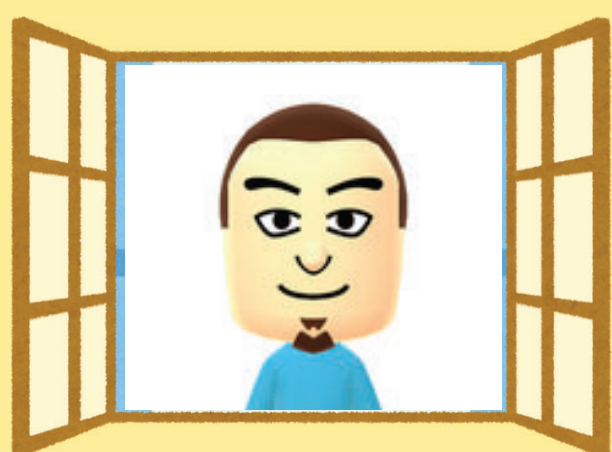
地域発展

新しい価値創出

新事業（宿経営など）

新たな雇用の創出
移住促進

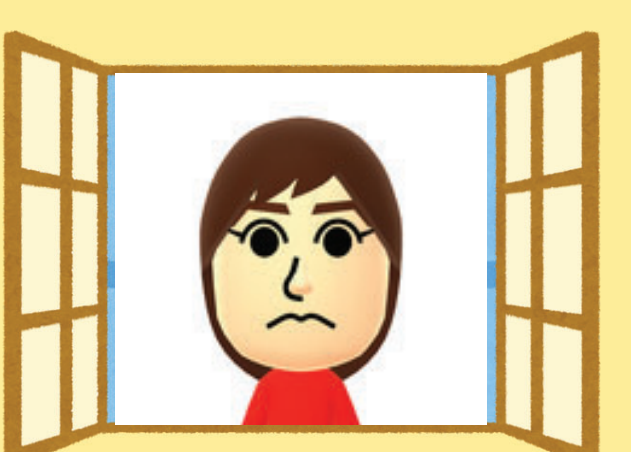
外での経験を川根の
観光に還元



シュンキチさん



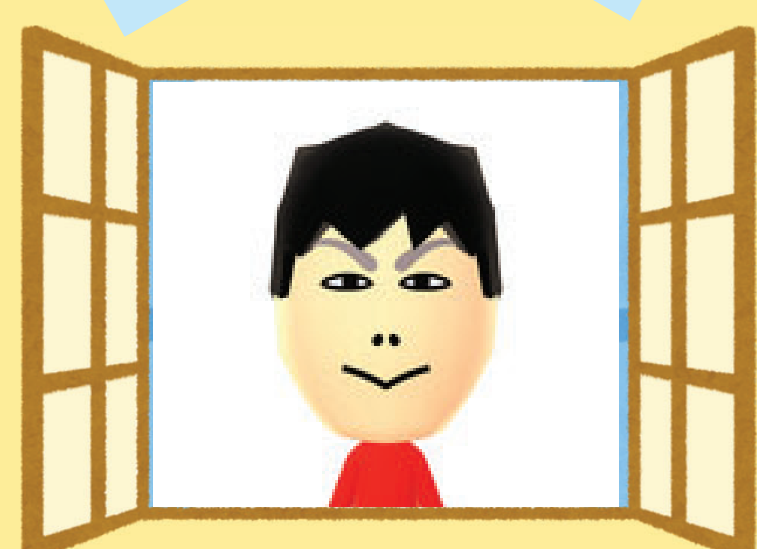
インドIT企業



温泉宿の女将さん

移住者のサポート

協力して観光推進



地域住民＋ 浜野さん ＋豊富な観光資源

5、考察

- ・浜野さん⇒地域発展の基盤となり、移住者と地域住民をつなぐ「**発起人**」
 - ・シュンキチさん⇒町おこしを推し進める「**プレイヤー**」
 - ・温泉宿の女将さん⇒俯瞰して町を見ることができる「**アドバイザー**」
 - ・蕎麦屋の女将さん⇒観光の資源となりうる「**地域住民**」
- 加えて…浜野さんは地域発展を取りまとめるリーダーであるとともに、「プレイヤー」を支える「**サポーター**」でもある

◎地域の発展を担う「プレイヤー」は外から来た移住者であることが望ましい。



新しい視点やアイデアを持ち、挑戦的な視点が地元住民に変化を与える可能性を持つため。

◎基盤となる「発起人リーダー」は行政ではなく地元の住民であることが望ましい。



地域に根差した信頼関係を持っており、住民主体の地域づくりが実現するため。また、行政に比べ担当者が変わりづらく、長い間一貫した動きができ、地域の信頼を得やすいため。

6、他地域での取り組み事例

群馬県上野村

上野村は60年代以降過疎化が進み、1988年より移住を促進。



2014年には住民の約17%が移住者となり移住者により林業を生かした新たな価値が生まれる。

例：林業×ウェディング、林間学校の受け入れ、名産品を生かした料理など。

これら全ては40年間上野村市長を務めた黒沢丈夫氏

が移住を促進し、「発起人」となったことで行われた。

これは行政主導で行われた例だが黒沢氏の40年という長い就任期間とそれに裏付けられた地域住民からの信頼関係によって実現したと見ることができる。



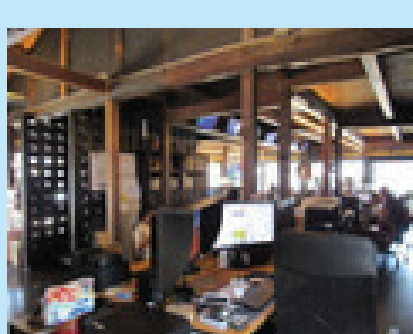
徳島県神山町

神山町は人口約5000人の地域で、過疎化・高齢化が進行
1990年代後半からNPO「グリーンバレー」が中心となり、IT企業のサテライトオフィス誘致やそれによる移住を推進



現在：サテライトオフィスに約18社の企業が集積
転入者数が転出者数を上回る

川根本町と同様に地域の自然や文化を生かしつつ、
地域住民と外部人材（プレイヤー）の協働による地方創成がうまく機能している。



7、結論

川根本町では、豊かな自然や文化といった豊富な観光資源を基盤に、重要な役割を持った住民が主導となって地域の発展に取り組んでいる。さらに、移住者やNPOなど外部からの新しい視点を取り入れることで、観光業や特産品などにおいて新たな価値を生み出し、持続的な地域の発展につなげている。

またこの地域では、街のほとんどの人がお互いに知り合いであり、日常の中で自然に助け合う関係が築かれている。お互いを信頼し合い、支え合う関係性が、地域に新しい価値を生み出し、持続的な発展を支える大きな力となっている。

同様に、過疎地域の地域活性化には、地域の現状や資源をよく理解する人材と、外部から新しいアイデアや視点を持ち込みプレイヤーとなる人材、そしてそれらを取りまとめる、発起人やリーダーとなる人材が必要である。

参考文献

- 安本宗春（2015）「観光による内発的地域振興における地域外人材の役割」『日本国際観光学会論文集』22: 211-216.
- 福岡由美（2017）「地方創生の成功例・神山町はどのようにして移住者を惹きつけたのか？」『LIFULL HOME'S PRESS』（オンライン記事）
<https://www.homes.co.jp/cont/press/>